

新型コロナウイルス感染症対策の中、知恵を絞り、施設のお年寄りの皆さんに運動会で披露した表現を見ていただいた！地域貢献的一幕



「二歩前進！事例集」から振り返る 明治小学校の取組について ～「協育」ネットワークを生かした学校の協働の実際～

大分県社会教育委員

佐伯市立明治小学校

校長

伊東 俊昭

全校児童 181人（令和3年12月17日現在）

学級数8学級（特別支援学級2を含む）

職員数 18人

学校の教育目標

ふるさとを愛し、豊かな心と学ぶ意欲を持ち、
自ら「気づき・考え・行動できる」たくましい子どもの育成

令和元年度の児童の実態及び課題

- 素直で好奇心旺盛な児童が多い
- 自己肯定感が低い傾向にある
- 基礎学力の向上
- 消極的で、自分の思いや考えを表現することが
苦手な児童が多い
- ◇粘り強く取り組む力の育成が課題となる

令和3年度佐伯市立明治小学校グランドデザイン

佐伯市教育方針

「人が学び、人が生き、人が育つ佐伯の教育」

佐伯市のめざす子ども像

学びを重ね、ともに考え、地域に学ぶ子どもたち

【保護者の願い】

- 学校に楽しく通う
- 仲良く元気に活動する
- 勉強がよくわかる
- 家で学校の話をする



めざす子どもの姿

- 時と場に応じた言動ができる。**思いやりと感謝**
- 自ら課題を見つけ、学びに向かうことができる。
- 自分の思いや考えを伝え合うことができる。
- 自ら挑戦し、粘り強く取り組むことができる。

学校の教育目標

ふるさとを愛し、豊かな心と学ぶ意欲をもち、自ら「気づき・考え・行動できる」たくましい子どもの育成

「置き去りにしない」個に応じた
学習指導の充実

地域のひと・もの・こと
を生かした体験活動
や課題解決学習
の推進

かしこく (生きて働く知恵)

- * 使える知識技能の習得
 - * 学ぶ意欲と「思考力・判断力・表現力」を高める授業の工夫
 - * 教材・教具や学習形態等の工夫による言語活動の活性化
 - * 家庭学習と読書活動の充実
- 勉強が楽しくわかる
100% !**

凡事徹底による
生活指導の
推進

英会話やICTを生かした
国際理解教育の
推進

生きる力

やさしく (感謝の心)

- * 規律ある学校生活の確立
 - * 学校行事及び体験活動等の内容の充実
 - * 道徳科・情操教育の工夫・改善
 - * より多くの人と関わる機会の設定
- 児童も教職員もやりがいを感じ、全員が
楽しいと思える
100% !**

たくましく (気力・体力)

- * 課題解決のための手立ての工夫
 - * 様々なことに挑戦する機会の保障
 - * 探究活動の内容の充実
 - * 命の教育と食育、歯磨き指導の充実
- 課題に粘り強く取り組める
100% !**

「自分の思いや考えをもち、自信をもって表現を
するとともに、互いに伝え合える子どもの育成」を
めざして体験活動と国語科をつないだ授業に取り
組んでいる。

「協育」ネットワークを活用して



保護者や地域住民、関係機関に様々な連携・協力をしていただきながら、**教育の協働**を進め、教育内容の充実に取り組んできた。

1 「協育」ネットワークの構築

(1) 校内体制の構築

地域協育推進担当を校務分掌に位置づけ、管理職や主要主任と協力しながら保護者や地域住民、関係機関との連携・協力を推進。

(2) **地域協育コーディネーター**との連携

ゲストティチャーや学習サポーター、事業所の職員などとの連絡調整を行っていただいている。

(3) コミュニティ・スクールの取組

弥生地区には、中学校1校、小学校3校があり、中学校を事務局として4校合同の運営協議会を設置している。

地域協育コーディネーターとの打合せ



必要に応じて
様々な形で



弥生地区校長連絡会



弥生地区学校運営協議会

(1) 組織

- 佐伯市立昭和中学校区内の中学校1校及び小学校3校を中心として運営協議会を設置
- 弥生地区の自治会長を運営協議会会長とする
- 事務局を昭和中学校に設置(教頭が担当)
 - ※中学校と小学校の教頭が連携して対応
- 地域協育コーディネーターと各学校のPTA会長(保護者代表)、区長代表(地域住民代表)、地域住民(学校支援者代表)などが、運営委員となっている。

(2) 主な取組

- 各学校の情報共有
- 学力向上会議
- 防災に関わる取組
- 地域の連携
- その他（校区の課題に関すること）

(3) 具体的な取組(令和2年度)

○引き渡し訓練(4校合同で同日に実施)



本年度は、各学校で防災に対する取組を行い、その成果と課題を運営協議会で検証し、弥生地区でどのように防災教育を進めていくかを協議する予定だった。

市域の防災士(OB)を招いての防災教育

- 実施に当たっては、
- ○校長・教頭・担当が、振興局職員・地域協育コーディネーターと打合せ、計画
- ○地域協育コーディネーターの連絡調整
- ○計画書の作成 振興局への計画書提出
- ○事務職員が実施計画書の市教委への提出
- ○校長の依頼
- ○教頭が依頼文書作成
- ○弥生振興局の予算執行
- ○実施

※本来は、学校運営協議会の取組として保護者と一緒に炊き出し訓練とテントなどの設営訓練を計画していたが、感染症対策のためにそれらの取組は中止となる。

R3年度の防災教育の様子



ここで、「学校と地域の新たな協働（協育）」
～ 2歩前進！ 事例集 ～

をもとに、本校の取組を振り返ってみる

課題①地域とともにある学校づくりを目指す学校協働活動の取組

東京都杉並区立天沼小学校運営協議会の取組

地域住民や保護者等が、学校運営協議会に参画

「地域に開かれた信頼される学校」「特色ある学校づくり」を推進

- ・児童の育成に向けたテーマへの取組を呼びかけ、1年間の教育内容を分かりやすく発信

※「天沼小が目指す教育の紹介」を作成・配布

- ・年度内には、学校評価等により検証

「不易」と「進化」の教育を特色ある教育活動に位置づけ、

「不易」の教育を地域学校協働活動の中心に据え、地域学校協働本部とともに進めている。

- ・保護者・地域・学校が、一体となったよりよい環境づくり
- ・児童・保護者・地域関係者・教員から学校評価や熟議等で寄せられた評価・意見を反映させて、「地域とともにある学校」学校運営や教育活動を充実させる ※広報資料の作成
- ・地域学校協働本部は、学校・地域・保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、様々な協働活動を行っている。

地域の大人たちと関わる体験活動により児童の学ぶ意欲の向上

課題①地域とともにある学校づくりを目指す学校協働活動の取組

・学習にゲストティーチャーやサポーターをコーディネーターとして

○多様な交流活動や体験活動を豊に進める

○安全・安心な教育活動と成るように連携

教育課程内の土曜授業「地域と共にある土曜日」の授業として
保護者・地域の人たちも学び合える取組

？ 誰が、取組を企画・計画して音頭を取るのか。

学校運営協議会？

・働き方改革への対応

○教職員とアンケート結果の内容をもとに熟議(教員・保護者・地域)

※学校運営協議会委員が、グループに加わりファシリテート
学校運営協議会が考えた業務改善を進めることで
教職員が、前向きに改善を考えていった。

？ 具体的にどのようなことが考えられたのか？

課題①地域とともにある学校づくりを目指す学校協働活動の取組

社会に開かれた教育課程・現代的教育課題への対応

学校運営協議会で学校方針に基づき地域学校協働活動の方針を協議してカリキュラムマネジメントを行う。

地域学校協働本部のコーディネーターが、コーディネートして実施「不易」を特色ある教育活動として日本の伝統文化理解教育、読書活動、キャリア教育は、地域の専門家、町会ネットワーク、商店会や地域団体と協働して体系的に進めている

→ 本校においては、地域協育コーディネーターが、連絡調整

各学校に地域学校協働本部が設置

- ・各学校で複数のコーディネーターが、活動
- ・「分区」近隣5校程度のブロック

学校内のコーディネーター同士が、SNSで交流を図る
コーディネーターどうしの協働の仕組みができている

→ 本校においては、中学校区に1人の地域協育コーディネーター
※十分に機能しており、特に不足を感じることはない。

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

新潟県上越市直江津東地域学園運営協議会
～中学校区の地域学園運営協議会の取組～

小学校4校・中学校1校 → 本校 小学校3校・中学校1校

地域内の各種団体の助成金や上越市の地域活動支援事業を活用

地域活動支援事業の提案書・申請書、実績報告書作成時無、地域協議会でのヒアリングの参加、業者への支払い等の会計業務は、学校は行わず、学園運営協議会事務局が行っている。

→ 本校では、地域産業振興協議会の事業を活用

事業実施計画書・報告書の作成以外は、協議会が対応

地域がつくる地域の学校は、地域が支える

地域住民・保護者が、5校の学校長と協力し、学園の運営を支える
学園運営協議会（意志決定機関）

学園支援本部が、決定事項を具体的に執行 バックヤードとして機能
学校運営協議会委員が青少年育成会議の事務局メンバーを兼ねる

？月1回の本部会の実施で、様々な会議がある中、勤務時間内で
時間を確保できるのか？

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

○直江津東地域学園協議会

ボランティアの募集

自然体験活動

教職員の補助

イベントの手伝い

夏休みの児童の学習補助

公民館事業

退職校長会との連携

○本校 地域協育コーディネーター

→ 地域協育コーディネーター

→ 関係機関との協働

→ 学校支援ボランティア

→ 保護者(PTA)・地域住民

→ 放課後学びの教室(市教委・退職教員等)

→ 公民館職員による公民館事業

→ 放課後学びの教室に協力？

【今後の方向性】

①教職員の行う活動

②教職員と協働して行う活動

③保護者が行う活動

④地域が行う活動

に整理して、課題解決に向けてできる範囲で少しずつ進める

→ 本校においても、教員の役割・保護者の役割・地域の役割をきちんと確認した上で、連携・協力していくことが大切と認識

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

埼玉県ふじみ野市立多い小学校学校運営協議会
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
学校応援団の一層組織化

統括コーディネーター(学校運営協議会メンバー)

各コーディネーターが、活動の意図をよく理解し、調整する。

担任が、児童に向き合う時間を確保

→ 本校では、校長・地域協育コーディネーターが、常に情報交換
必要に応じて、教頭及び担任が打合せを行う。※地域協育推進担当

地域学校協働本部

地域学校協働活動推進委員を指名

→ 本校では、推進委員はいない。保護者・地域住民が連携・協力
人材発掘

→ 本校では、校長と地域協育コーディネーターが情報収集
学校応援団 「できる人が、できるときに、できることを」

→ 本校PTAも、「できる人が、できるときに、できることを」を理念に

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

人と人を緩やかに繋ぐネットワーク
地域を知り、人と人との繋がりを大切に
学校を核とした地域づくり

「コミュニティ・スクール」は、学校教育課

「地域学校協働活動」は、首長部局と社会教育課の協働

※地域と学校、地域と学校運営協議会を繋ぐ人材が不可欠

→ 本校でも、地域協育コーディネーターの存在は不可欠

ASN(あさひスクールネットワーク)スタンダード

「ASN安全スタンダード」

「ASN学習スタンダード」

「ASN環境スタンダード」

→ 本校においても、保護者や地域住民の連携・協力は
安全・安心の確保、学習活動の支援、環境整備に関すること

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

人宮崎県都城市立沖水中学校・学校運営協議会
～都城市教育プランの実践のための学校運営協議会の活動～

①熟議

学校と地域の人々が、みんなをよく考え、話し合っていくこと

②協働

同じ目標に向かって、一緒になって活動していくこと

③学校のマネジメント

校長を中心に、学校の組織としての力を上手く引き出すこと



本校においては、

①積極的な情報発信とコミュニケーション

地域協育コーディネーターや関係機関及び事業者等との対話

②協働

様々な繋がりを積極的に活用して効果的に活動していく

③学校経営（職場及び関係する人々との人間関係の構築）

校長を中心に、学校の組織力を最大限生かす環境の構築

課題②教員の働き方改革への学校運営協議会の対応

教職員が、子どもと向かい合うための時間を確保
地域や家庭が、果たすべき役割分担

→ 本校では、保護者が、当たり前前のことを当たり前前に実施
(例)コロナ禍にあって、検温・マスクの着用・連絡
健康観察カードの提出・給食費の納入

不登校傾向児 0人 生活指導錠の大きな問題 0件

※問題や課題が生じてもすぐに解決できてきている。

※地域の方々の安全・環境整備に協力・支援いただいている

保護者や地域住民の連携・協力により、地域のひと・もの・こと
を生かした学習をすることで、学習内容の充実と児童の変容から
成果を実感することで、やりがいを感じている。

※教育課程の中に、S(学習サポーター)やG(ゲストティーチャー)を記述

【今後の方向性】

学校運営協議会委員の構成について、校区域以外や企業経営者からの登用と
教職員の要望の洗い出し → 本校においても企業経営者との連携を重要視

課題③地域(社会)に開かれた教育課程への学校運営協議会の取組

新潟県上越市春日新田小学校

～社会に開かれた教育課程への重要な3点の取組～

- ①社会や世界の状況を視野に入れ、学校教育を通じて、より良い社会を創る。教育課程を介してその目標を社会と共有する
- ②子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り拓く
- ③地域の人的・物的資源の活用
社会教育との連携・ 目指すところを社会と共有・連携



本校においては、

- ①PTAの各種会議や行事、学校運営協議会、学力向上会議、青少年健全育成協議会などにおいて、グランドデザインなどの資料を用いて学校の運営方針について説明、学校だより等で情報発信
- ②各種企業や関係機関の見学や連携事業の実施。また、他県や海外の学校とのICTを活用した交流学习の実施。
- ③地域のひと・もの・ことを生かした相互的な学習の時間の充実
地域社会のみならず、他地域の関係機関や大学との協働を実施。

教育目標の見直しと教育課程の改善

※令和元年から毎年、学校の教育目標を見直し、グラウンドデザインを改良して、職員や保護者、関係者に示している。

※学校だよりの地域への配布や口コミ、マスコミの利用

※地域協育コーディネーターとの連携

※大分大学の教員・社会教施設・こども園などとの連携

④挨拶運動 家庭や地域を巻き込み、地域ぐるみで挨拶運動

＜学校がすること＞ → 教師が行うこと 見本となる挨拶

＜子どもがすること＞ → 児童が行うこと 朝のあいさつ当番

＜家庭がすること＞ → PTAとして行うこと 一斉あいさつ運動

＜地域がすること＞ → 地域が行ってくれること 見守り隊

＜成果と課題＞

目標達成のための学校・子ども・家庭・地域がすべきことの具体化

取組情報の共有化 ホームページ絵の掲載、マスコミの協力

＜今後の方向性＞

後継者探し、異動してきた職員への年度当初の研修

→ 本校では、情報発信、教育課程による引き継ぎ、マスコミの活用

課題③地域(社会)に開かれた教育課程への学校運営協議会の取組

岡山県浅口市立寄島小学校学校運営協議会

～前任校の取組を現任校で発展した「よりしま学」の取組～

○公立の保育園・こども園・小学校・中学校の4校園で寄島学園
コミュニティースクールとして活動

4つのプロジェクトと3部会で構成されて活動を行っている。

→ 本校では、CSの中には、保育園やこども園は含まれていない
しかし、情報交換や交流学習などは計画的に行っている。

【絆づくり部会の取組】 学校支援ボランティアの力を生かす「よりしま学ゲスト
ティーチャー」を促進、学校支援ボランティア一覧表の作成、中学生ボランティアの
育成、体験活動・交流活動の充実、「よりしま学」の開発、のぼり旗作成、通信の発信

【よりしま学】 小学校1年生～中学校3年生までの生活科・総合的な学習
の時間の学種を核にして、寄島の魅力や課題を探り、ふるさとに誇りをもつ
育成をめざす。フィールドワークによる地域素材をカリキュラムシートに落と
し込み、教員、PTA役員、地域住民、中学生、岡山大学生でワークショップ
で改善したシートを学校運営協議会で協議してカリキュラムシート、ストー
リーシート、「よりしま学」指導計画を作成。 → 取組の成果が期待できる

課題③地域(社会)に開かれた教育課程への学校運営協議会の取組

大分県別府市立石垣小学校学校運営協議会

～教職員の願いを基にした地域学校協働活動カルテの作成～

「すき間応援隊」:「教育活動のすき間」を地域住民が支援する地域づくり

「子どもの学びづくり応援隊」:子どもの学びに大人が関わっていく取組を推進

「協育の石垣推進隊」:学校・保護者・地域住民のネットワークによる子育て地域づくりの推進

※コーディネーターは、公民館職員が兼務し、1中学校と2小学校を担当
必要に応じて、学校運営協議会での協議事項をコーディネーターに伝える
→ 弥生地区の地域協育コーディネーターは、公民館所属で1中学校と3小学校を担当し学校運営協議会の委員をしている。

「社会に開かれた教育課程」

地域との協働活動プログラムを検討、地域の人的・物的資源を活用、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図りつつ、学校で行う38のカルテ、公民館や地域で行う11のカルテを作成。

- ①教職員と一体となった「地域に開かれた教育課程」の検討
- ②地域住民の参加と関係団体・組織との協働<PTAの役割の確認>
- ③学校運営協議会の役割を共有<出来る人が、出来る時に、出来ることを>

＜地域に開かれた教育課程＞の作成の取組

1. 朝先生→1・2学年 朝の時間に児童の見守り
2. 夏休みステップアップ学習支援ボランティア→5・6学年
ボランティア募集の呼びかけや運営への参加
3. 「おもしろ算数教室」学習支援ボランティア→3学年
算数に興味関心をもたせる学習活動
4. 読み聞かせ・読書活動(読みきかせサークルと協働)→全学年
5. 外部人材の活用→全学年
企業との連携・外国の子どもとの交流を企画・運営
地域企業への見学や火起こし体験・焼き魚体験等の地域住民との交流
→首長部局・社会教育課の事業及び地域協育コーディネーターとの連携で実施

「社会に開かれた教育課程」

地域との協働活動プログラムを検討、地域の人的・物的資源を活用、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図りつつ、学校で行う38のカルテ、公民館や地域で行う11のカルテを作成。

- ①教職員と一体となった「地域に開かれた教育課程」の検討
- ②地域住民の参加と関係団体・組織との協働＜PTAの役割の確認＞
- ③学校運営協議会の役割を共有＜出来る人が、出来る時に、出来ることを＞

課題④コロナ禍の中での学校運営協議会の取組

岐阜県白川村白川郷学園学校運営協議会

～コロナ禍の中で出来る学校運営協議会の活動～

ふるさとを体感して未来を考える学び、地域の温かさを感じて地域貢献につながる活動、自己を見つめて良さを伸ばす家庭学習など教員のみでは進められない担い手活動を学校運営協議会の学校支援部・地域活動部・家庭サポート部の3つの部会で推進。

特別な授業「村民学」がより充実した学びになるよう9学年全てに2名ずつの地域コーディネーターを配置。担当教職員とコーディネーターが1年間を通して実践。

<コロナ禍にできる活動を模索して>

- ・動画の活用 コーディネーターが撮影に協力
 - ・動画による教材づくり ・感染予防を考慮した体験活動
 - ・学校支援部による「5分ゆめ動画」を集める取組(道徳・キャリア協育)
- ※未来に向かう大人の姿を見せることが、一番大切な「将来の担い手育て」

→感染症対策を行った上での社会見学や体験活動の実施

大分大学とのリモート授業、他県や海外の学校とのリモートを活用した交流授業

課題⑤コーディネーターの一定エリア内のネットワーク化・組織化

奈良県奈良市教育委員会地域協育課
～地域教育協議会(中学校区)の活動～

大分県別府市教育部社会教育課
～令和2年度からの「別府市教育魅力化事業(モデル事業)」の取組～

様々な地域の特性やエリアの広さ、学校の数が異なるので、多様なネットワークの形とコーディネーターの配置の仕方が考えられる。

そのような中、県の社会教育委員の立場からすると、本校の地域協育コーディネーターのように、コーディネート能力に長け、献身的に自らゲストティチャーや学習サポーターとして活躍しながら、地域住民に声をかけ、様々な支援や協力を効果的にもたらしてくれる人材は、そう多くはいないと感じる。

佐伯市内で活躍されている地域協育コーディネーターの方々の高齢化は進んでおり、次の担い手を養成しないと人材確保が難しくなると感じる。

また、地域協育コーディネーターの福利・厚生面をきちんと保障することも人材確保に繋がると思われ、県及び市の教育委員会に見通しを持った計画的な人材養成を行っていただきたいと校長の立場からも強く感じる。

大分大学や企業の経営者などを校区コーディネーターに繋げることを校長として意識してきたが、今後、様々な職種や国内・海外との「協育」ネットワークの構築が期待される。そのための研修会や人材活用を、行政には是非進めていただきたい。

感想

- 特に、組織を作って会議を行わなくても、地域の方々が訪ねてきて、簡単な打合せで、様々な取組が行われ、環境が整備され、教育効果が結果として見えてきた。
- コロナ禍にあっても、地域のひと・もの・ことを生かした様々な体験活動や授業、行事を行ってきた。地域協育コーディネーターの協力をはじめ、保護者や地域の方々、関係機関の協力によるところが大きい。
- PTAとしての挨拶運動や消毒活動など地道な取組が、学校を支える力となっている。何よりも、保護者が、行うべきことをきちんと行ってくれることが、働き方改革にも繋がっている。
- しかし、今後、職員の異動により学校職員の構成メンバーが変わっていったときに、現在の保護者や地域との連携・協力体制が維持されるとは言い切れない。
- であれば、何らかの組織を構成することで、これまで構築されてきたものを維持し、発展・継続するためには、地域協育コーディネーターをはじめ学校運営協議会の運営及び地域学校協働活動に積極的に取り組んでいくことは、重要だと考える。
- 「学校と地域の新たな協働(協育)」～二歩前進！事例集を参考にそれぞれの取組を振り返ったり、今後の取組に生かすことは、とても有益であると考えます。

2 協働の取組の実際

(1) 地域のひと・もの・ことを生かした教育活動
の具体的な取組

明治小児童が防災マップ 佐伯

学校周辺危ない場所は？

【佐伯】佐伯市弥生の明治小(伊東俊昭校長、181人)は8日、防災教室を開いた。4年生27人が防災マップ作りに取り組み、災害や避難について考えた。

講師は奥佐伯土木事務所職員らが務めた。4班に分かれた児童は学校周辺の地図で水害や土砂災害の危険性がある場所を確認。校外

班ごとにオリジナルの防災マップを作る明治小の児童



に出て山際や川沿いを歩きながら周囲を観察した。「急傾斜地崩壊危険箇所」を示す標識や土砂災害対策の擁壁などを見つけると、写真に撮り、気付いたことをメモした。

学校に戻った後、チェックした結果を基に各班のオリジナル防災マップを制作。地図上に写真や注意点を

を記した付箋を貼って完成させ、互いに発表した。

中田桃奈さん(9)は「身の回りに、いつもは気付いていなかった危険な所や物があると分かった」と話した。

(2) 関係機関との連携

大分県立九重青少年の家との協働

令和2年度

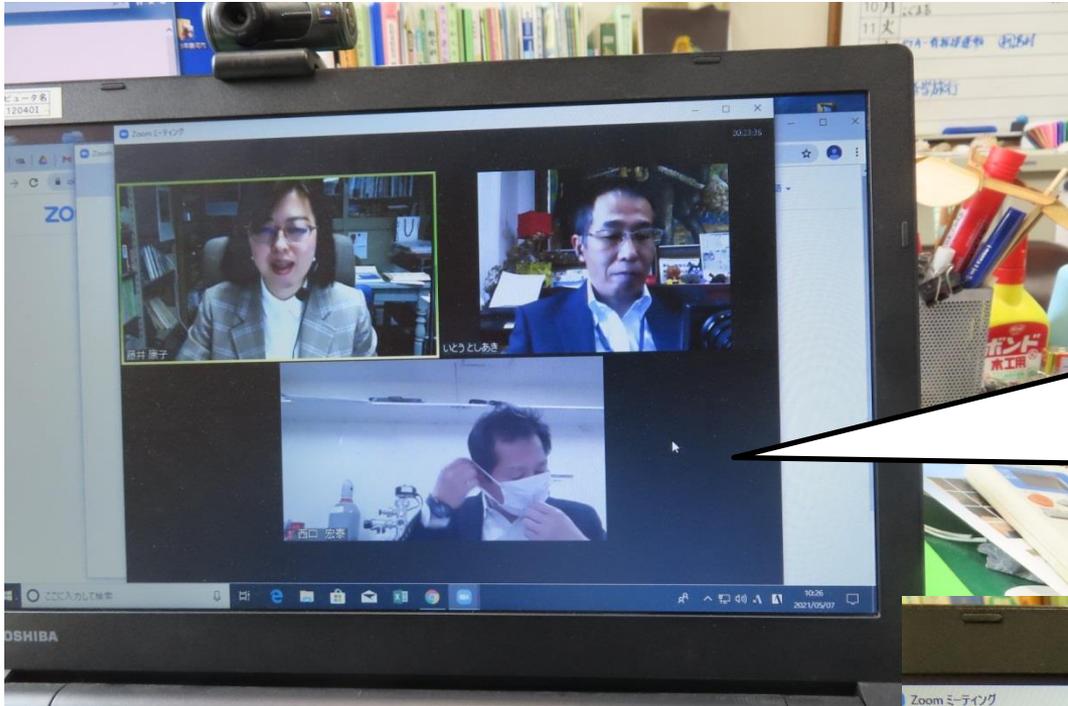
5学年と6学年が、2泊3日の集団宿泊体験学習

令和3年度

**5・6学年が、2月に2泊3日の集団宿泊体験学習
を行う予定**

※新型コロナウイルス感染症対策のため検討中

大学の先生方との打合せ



校長が、担任の思いや考え、授業の内容についてあらかじめ概要を説明

ICT活用による打合せの効率化

休み時間や空き時間を利用して、担任も加わり、具体的な打合せ

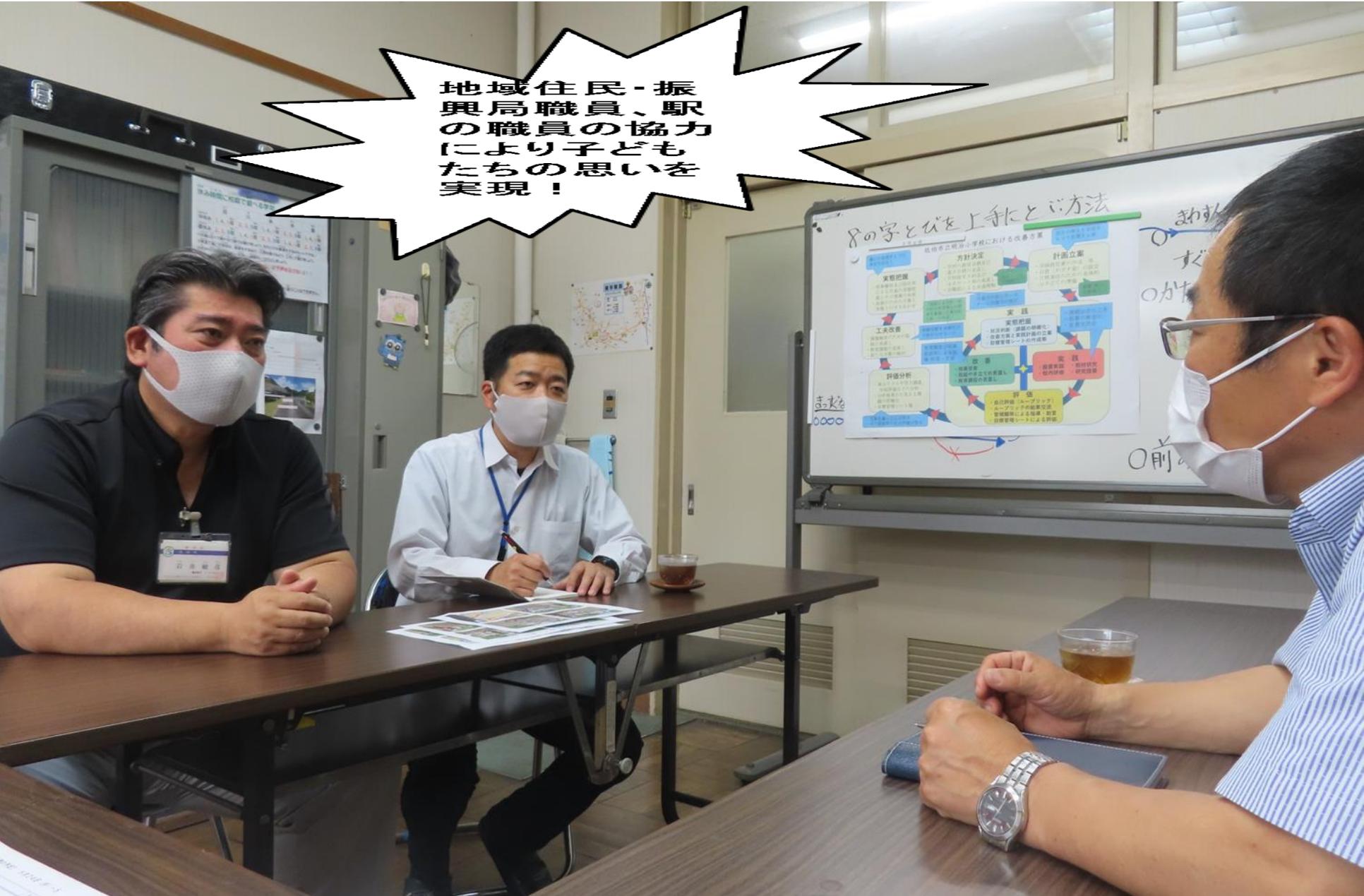


大学との協働



地域振興局職員との話し合い

地域住民・振興局職員、駅の職員の協力により子どもたちの思いを実現！



(3) PTA活動

- 新型コロナウイルス感染症対策としてPTA活動の殆どが自粛されているが、昨年度末から、PTA会長の呼びかけにより保護者の有志の方々が、学校の消毒作業を行っていただいている。

※運動会や夢わく祭(子ども祭)の後、多くの参

観者が使ったトイレや椅子などをPTA施設部の方々や有志の方々が掃除と消毒を行ってくださった。

PTA活動の様子



できる人が！
できる時に！
できることを！



課題④コロナ禍での学校運営協議会の取組

- 岐阜県白川村白川郷学園学校運営協議会の取組からは、「ふるさと学習」において、ipadを使ってのオンラインによる「5分ゆめ動画」配信する試みや地域公開日を実施していることが分かった。



本校においては、感染対策を行いながら地域の事業所に見学に行ったり、大分大学や秋田県の学校、遠くは海外の学校とリモートで授業や交流学习を行っている。

学校運営協議会が校内の掃除を行ったり、事業所の動画を撮って、授業の中で流したりすることは非常に有効な手段であり、本校でも今後行っていく価値があると考えます。

(4) 地元の協力による環境整備

① 避難路の確保のために地元企業大分プラント工業が、
無償で校庭から農道に繋がる鉄板を設置・別の建設会社
が、ユンボで道を整備

子どもは、域の宝！
できることは、
やります！と会長



組織とは関係ない地域住民との繋がり

地域に開かれた学校づくり
を行っていく



校長室に立ち寄って(地域住民お孫さんが2人在籍)

地元企業の関係者との繋がりによる教育の協働



明治小学校

6年生、5年生 皆さんへ

先日は小雨の中 見学に来ていただき
有り難うございまして
皆さんの見学姿を写真に取って
いそひ分をお渡しいたので
湖随に付いて下さい。

皆さんの礼儀の正しさ

行動力、メモを取る習慣がある事
どれも素晴らしい程 嬉しかったです
私達も皆さんの若さに接する事が
大変うれしく 楽しかったです
皆さんで話にのります
本当に有りがとう 又会いましょう

大分プラント工業 別。

大分プラント工業株式会社 社長 澤会長より

感謝の手紙



大分プラントのみなさんへ

12月17日(金)は見学させて

くださり、ありがとうございます！私が一番バに残った

のは、クレーン(?)みたいなものに乗ったことです。あの時は

まで「死んだあ〜」と思いました。とちゃう、「この高さなうたはじ

うがたな」と思ってた。めっちゃ高くなっておどろきました。(おもしろい！)

最後の質問コーナーとかの時、ほとんどが手作業だ、めっちゃ

おどろきました。え、？、となりました。すごいなあ〜と思ったこと

は、「どんどんむすかしい、あたいいものにチャレンジする？」という

話を聞かれました。失敗することとか、どんな

ことがあるかわからないのにチャレンジはすごいな

って思います。私は今のところ、そんな勇気はない

けど、近いうちにそういう人に絶対なりたいと思

います。ありがとうございます。



私は大分プラントを

見学して、1つ1つ手作業で

つくっているということにおどろきました。

大分駅のバス停の屋根もつくっているとい

うことも初めて知りました。イメージ

行動力・コミュニケーション能力この

3つの力が大事だとわかりました。

これから私はイメージをしてそれを行動に

生かせるようにしたいです。

東京に行く機会があれば

見に行きたいと思います。

6年 見玉 結花



私は見学してこんなに大きなく

もの形のものを作伯市どつくて

乗車も、ていくというところがとてすごいと思いました。もし

私が大人になって東京にききか、があったら完成したのを

見たいと思います！あと、大分プラントのみなさん、安全に気を付けて

朝朝30分体操しているのを見てびっくりしました。そして、私たちが

がけがをしないようにヘルメットなどを付けてた、り、けがさせず

安全に見学ができて良かったです。私も大分プラントのような大きな

会社に入りたいと思ったので、これからまず、仲間と協力して

勉強を少しづつ、がんばりたいと思います。

6年 鶴岡 結愛



佐伯市立明治小学校

5年



末永 凜



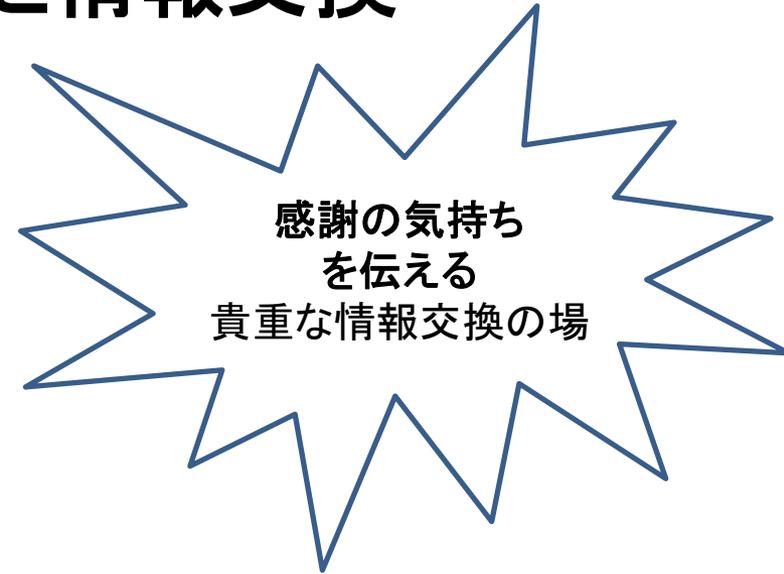
6年



6年

(6) あいさつ運動に関する 学校・保護者・地域の取組

(7) 活動の振り返りと情報交換



1. 成果

- 「協育」ネットワークの活用により、**地域のひと・もの・ことを生かした**取組を行うことで**体験活動や授業が充実**。
- 子どもたちが、より多くの人たちと関わりながら学ぶことで、**挨拶や学習規律が向上し、思考力・判断力・表現力も養われつつあり、児童の自尊感情を高めることにつながってきた。**
- 地域素材や地域人材を生かした教育実践により、**教職員の意識・知識・技能の高まり**が認められる。
- アンケート調査で「**学校が楽しい**」と回答した児童が93%、「**ふるさと弥生や佐伯市が好き**」と回答した児童が97%で、令和元年4月から、**不登校児童・不登校傾向児童は、0人。**
- 学校評価で「**地域のひと・もの・ことを生かした教育活動ができている**」と回答した教員は100%。**地域に開かれた学校づくり**

地域協育コーディネーターとして

- 弥生地区公民館を拠点として1つの中学校と3つの小学校の地域協育コーディネーターとして活動
- 弥生地区では、年間延べ6,800人のボランティアが、学習サポーターやゲストティーチャー、見守り隊として活躍
- 市の地域協育コーディネーターの交流会が2ヶ月に1回程度実施
 - ・ゲストティチャートとして活躍できる人材や参考になる取組内容の情報交換
- 常に情報収集
 - ・退職した人や事業所、イベントなどの情報

自らも学習サポーターとして
子ども達の支援を行っている

学校支援に参加している方たちの声

- 外で活動することを楽しみにしており、夫婦で参加したい。(地域住民)
- 子どもの姿や笑顔を見ると元気が出る！(高齢者)
- 学校の様子や子どもの様子がよく分かるメリットがある。(保護者)
- 子どもたちと会うことで、頭の体操にもなるし、自分の生き甲斐にもなる。(地域住民)
- 地域で子どもたちに会うと、「お世話になりました」と声をかけられたり、挨拶を交わしたりできる。
- 学校にボランティアで来たときに、集まれる部屋があるとよい……。

子ども達と関わることで元気が出る！
生きがいを感じる！生涯学習につながる！

2. 課題

○「協育」の意識と取組の温度差の解消 → **意識改革**

※過度の支援・協力 → 教員の甘えの解消

支援をしていただくことが当たり前！お客さん状態！×

○成果と課題についての**学校・家庭・地域による共通理解**

○効率的な打合せや準備により**関わる人の負担感を解消**

※教師も協力者も手応えを得て、やりがいを感じれば

……**持続可能な取組に！**

○**学校支援ボランティアの支援を日常的に活用！**

※**継続的な取組**



教育の協働の推進！

生きがいの場づくり！

連携・協力しやすい学校とは、

- 子どもも職員も挨拶をよくする学校
- 管理職と話がしやすい学校
- 地域学習に対する意欲のある学校
- 地域を知ろうとする姿勢のある教師のいる学校
- 子どもたちの学ぶ姿勢ができている学校
- 活動の目的や内容について明確な学校
- 参加者に感謝の気持ちを伝える学校

今後の課題

- 活動のマンネリ化を防ぐために、毎年、活動の目的や内容、教師の思いについて確認をする。
- それぞれの取組について、教員と学校支援ボランティアとで振り返りを行い、次の取組に生かす。
- 教師の役割、地域協育コーディネーターの役割、学校支援ボランティアの役割を明確にする。
- 効果的な取組や有効な人材についての情報を共有する。
- 学校支援ボランティアが入りやすい学校、戸惑うことのない学校の雰囲気づくり。 **情報の共有！**

強く感じること

- **「協育」ネットワーク**を活用することで、地域の特徴や地域の支援を**より効果的に生かせる**。

ネットワークを構築していくことは容易ではない、はじめは苦労もあるが、…。

ネットワークが構築されてくると**効果は絶大！！**

- 地域との協働が、子どもと教員に知恵と技、力を提供してくれる！

地域協育コーディネーターや学校支援ボランティアの存在が、学校の働き方改革に大きく貢献をしている！

そのことが、参加してくださる方々の**生き甲斐に！**

但し、それぞれの**役割を明確にする**必要がある！

今こそ、人と人がつながるネットワークの拡充が大事！

広がる「協育」ネットワーク

- 校区内に留まらず、県内外の学校と繋がり、海外の学校や日本人学校とつながる「協育」ネットワークの拡充を図りながら、これからの未来を切り拓くにふさわしい人材育成をめざした教育実践を進めている。

ミクロネシアと英語で交流

佐伯 明治小児童「笑顔で言えた」



画面越しに自己紹介する明治小の児童＝佐伯市弥生

総合的な学習の時間（国際理解教育）の一環。同連邦出身で同小の外国語指導助手のパーマン・ジョネル・デイさん（28）が画面越しに同小と母校の教室をつないだ。

同小児童は英語の授業で学んだことを基にスピーチ。両国の児童が交互に名前や好きな食べ物、スポーツなどを紹介し、拍手を送り合った。

吉田己殊君（11）は「外国の人に英語で自己紹介するのは緊張した。笑顔で言えた」と話した。

同スクールとの交流学习は今後も継続する。互いに学校生活や地元の産業、自然を紹介し、絵画作品を送ることなども計画している。

（山本吉純）

【佐伯】佐伯市弥生の明治小（伊東俊昭校長、181人）の5年生28人が14日、オンライン会議システム

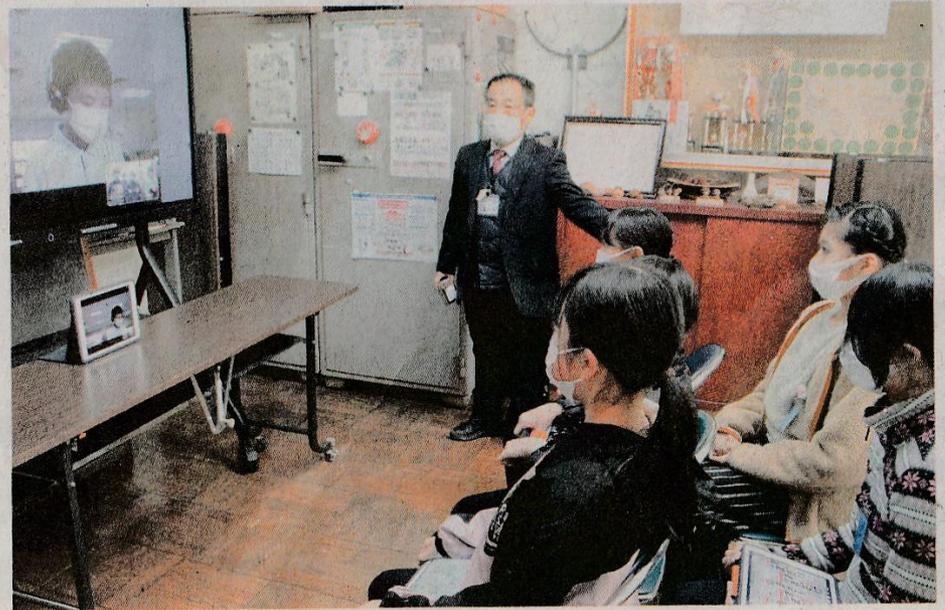
「Zoom（ズーム）」を使ってミクロネシア連邦のポンペイカソリックスクールの児童と交流した。

とことん地域密着

マレーシア日本人学校との交流学習

マレーシアの日本人学校と交流

弥生の明治小児童、オンラインで



画面を通じてマレーシアの生徒と交流する明治小の児童―佐伯市弥生

【佐伯】佐伯市弥生の明治小（伊東俊昭校長、181人）の児童が1月31日、マレーシア・クアラルンプール日本人学校の子どもたちとオンラインで交流した。

同小から6年生28人、日本人学校は中学1年生28人が参加。6班に分かれた同小の児童は図書室や音楽室など校内6カ所から、総合的な学習の時間に学んだ佐伯の自然、特産物などを紹

介した。

日本人学校の生徒はSDGs（持続可能な開発目標）の観点から調べたマレーシアのごみ問題やオンラインウータンの生態などについて説明した。

同小の児玉結花さん（12）は「マレーシアのごみの現状を知ることができた。現地で流行しているお菓子のことなども教えてもらえて楽しかった」と話した。

（山本吉純）

「協育」ネットワークを活用した教育の協働を進め、地域に開かれた学校づくりを

ふるさとを愛し、豊かな心と学ぶ意欲を持ち、
自ら「気づき・考え・行動できる」たくましい子どもの育成をめざして

